# 病児保育室とう太通信

vol.14

季節がどんどん進んで寒い冬がやってきました。いろいろな病気にかかりやすい季節ですので、基本的な感染症対策を続けて元気に冬を過ごしてほしいと思います。
室内でも、屋外でも、どんな季節でも事故は突然起こってしまうものです。
今回は、もしもの時の救急車の呼び方や頭を打った時の対応についてお伝えします。

## もしもの時もあわてない！救急車の呼び方

状況によっては応急処置を指示されることもあるのでメモの準備をしておきましょう!

### 「119」に電話し「救急です」と答えます

決して慌てずに落ち着いて電話してください。

### 症状や怪我の状況などを伝える

「誰が」
「どうしたのか」
「どんな状態か」を正確にわかりやすく伝えましょう。

例
○歳がけいれんしています。右の手足だけ動きが強いです。

### 場所を聞かれたら住所や目印になるものを伝える

家の周りにどんな建物があるか覚えておきましょう。

例
○市○番地です。近くに小学校があります。

### 子どもの名前と電話番号をはっきりと答える

例
名前は○○○○、連絡先は○○○○○○○です。

### サイレンが聞こえたら外に出て誘導します

一人しかいなければ、誘導せずに子どものそばにいてください。

知っていると安心

### 熱性けいれんが起こった時の対処法

発熱に伴って起きるけいれんで「ひきつけ」と呼ばれることもあります。5歳頃までの乳幼児期に起こりやすいです。ほとんどが5分以内に自然に止まりますので落ち着いて様子を観察しましょう。スマホなどで動画撮影しておくと受診時に役立ちます。

①安全な場所で寝かせましょう

②時間をはかりながら様子を見ましょう。衣服を緩め顔を横に向けておきます。

この時、口の中に物を入れたり体をゆすったりしてはいけません。

③発作が治まり意識が回復したら落ち着いてかかりつけ医を受診しましょう。

### こんな時は救急車!! 至急受診しましょう!!

- ☐ 5分以上続く場合
- ☐ 24時間以内に発作を繰り返す
- ☐ 発作が治まっても意識がはっきりしない
- ☐ 左右でけいれんの強さが違う
- ☐ けいれん前に頭を強くぶつけている
- ☐ たて続けに吐く
- ☐ 手足にまひがある

## あると便利！持ち物リスト

そのまま入院の可能性も…。救急車が来るまでに準備しましょう!

- ☐ 健康保険証
- ☐ 母子健康手帳
- ☐ 乳幼児医療証
- ☐ おくすり手帳
- ☐ おむつ・おしりふき
- ☐ タオル・手拭き
- ☐ 哺乳瓶・ミルク
- ☐ 現金
- ☐ 子どもの着替え
- ☐ ビニール袋（濡れたものやゴミを入れたり何かと便利）
- ☐ 携帯電話・スマートフォン

この4つは通常の受診でも必要です。セットにしておくと便利ですよ!

### あわててしまうと思いますが…

誰もが混乱する状況だと思いますが**家の鍵のかけ忘れ**には注意です!
また、きょうだいがいる場合預け先をどうするかなど日頃から考えておきましょう。

裏面に続きます

# 正しく知って安心！ 頭を打った時の対応

## ❶まずは意識の確認を！

名前を呼んだり、肩を叩くなど少し刺激を与えてみて意識状態を確認しましょう。

頭を打ってすぐに泣いた場合は、意識がはっきりあると考えて良いでしょう。

## ❷ケガ（傷・こぶ）や痛みがあるかどうか

頭部のケガは少しの傷でも出血が多く、保護者が焦ってしまうことが多いです。押さえるとすぐに止血した場合は心配ないでしょう。また、こぶやあざ（内出血）ができる場合があります。こぶは500円玉より小さい程度であればまず問題ありません。

## ❸頭を打ってから48時間は子どもの様子を観察しましょう

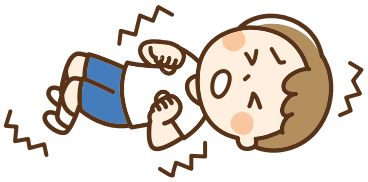
頭を打って数時間以上経ってから意識障害などの症状が出てくることがあります。子どもの様子に変化がないか近くで観察しましょう。

こぶやあざができている場合、子どもが嫌がらなければ保冷剤や氷水で冷やしましょう（無理して冷やす必要はないです）。

また、頭を打った当日は激しい運動をしないようにしましょう。

### 救急車を呼びましょう

- 意識がない
- けいれんしている
- 手足のまひ・動きの左右差



### すぐに受診しましょう

- 呼びかけに反応が悪い
- 歩くときふらつく
- 受け答えの言動がおかしい
- こぶがどんどん大きくなる
- 出血が止まらない
- 強い頭痛を訴える
- 何度も嘔吐する

## 子どもの様子がおかしいと思ったら受診を考えよう

「いつもより機嫌が悪い」「元気がなくて静か」「見た目にはケガはないけどずっと痛そうにしている」など、子どもの様子がいつもと違う、様子がおかしいと思ったら受診を考えてください。

保護者が感じる【いつもと違う】という感覚は、子どもにとって何か良くない状態があると感じ取っているサインだと思います。まずは慌てずに受診してかかりつけ医に相談してみてください。

**※こども医療電話相談【#8000】でも相談できます。（18:00～翌朝8:00まで）**


病児保育室とう太 併設 うえだこどもクリニック UEDA CHILDREN'S CLINIC

〒520-2331 野洲市小篠原869番地1 077-596-3751

↑web予約受付はコチラから